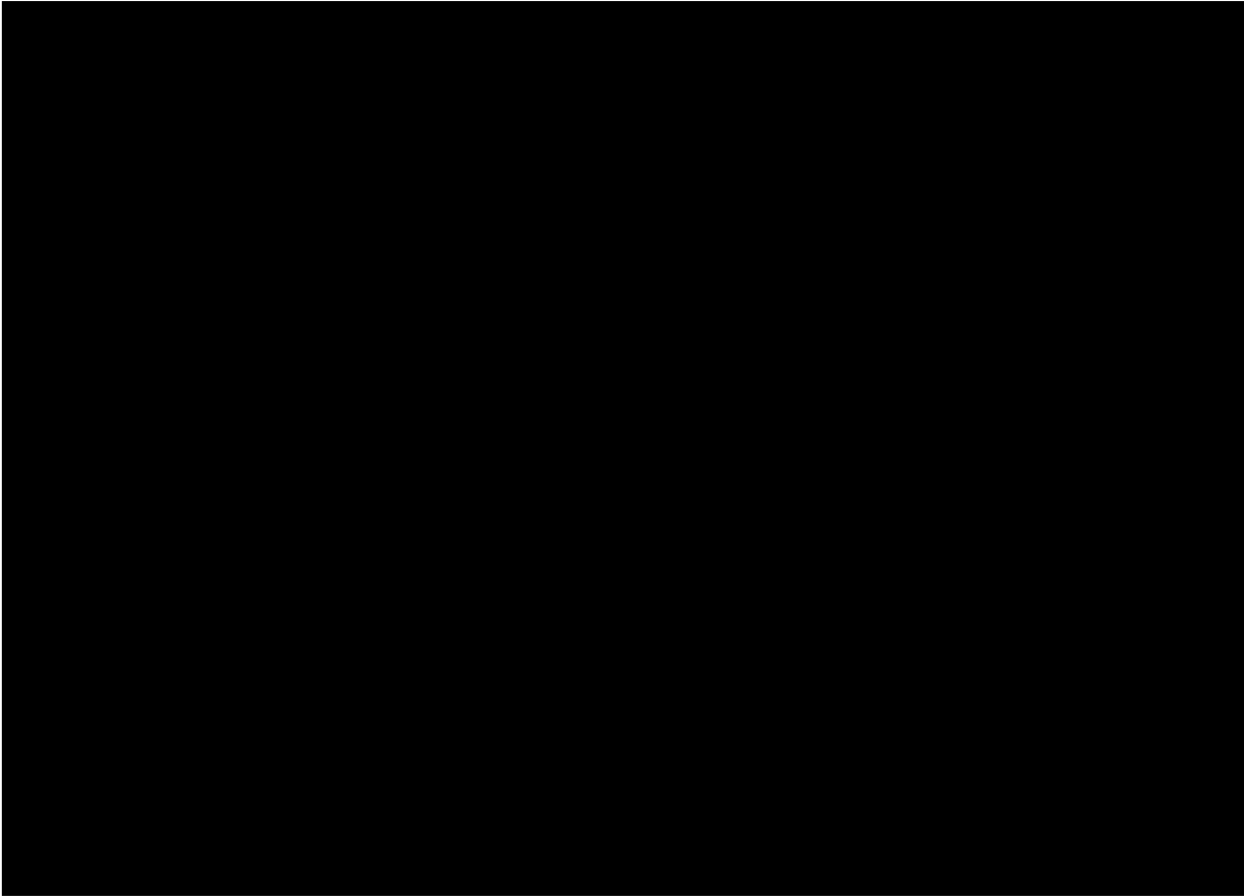


研究室」を開設した(ホームページ：<https://www.envssil.t.u-tokyo.ac.jp>)。東京都下水道サービス(TGS)による寄付講座で、寄付金額は1億9000万円。担当教員は滝沢智特任教授(兼務)、加藤裕之特任准教授、野村洋平特任助教の3名。開設期間は5年間で予定している。6月24日、東京都千代田区の日本ビル(TGS本社)で、教員3名とTGSの渡辺志津男代表取締役社長(6月末で退任)が専門紙記者団の取材に応じた。

冒頭、滝沢教授が研究室の設置趣旨を説明。「エネルギー消費や浸水対策の問題など、時代が変わって新たな要求が出てきている中、水や汚泥、エネルギーや空間の有効活用によりCO₂排出量を削減し、施設管理に関する膨大な情報を近年の情報技術等を活用し有効に運用することが下水道事業に対し求められている」と話し、研究室の役割・方向性として、①学内外の研究者や企業、行政が連携し、高効率資源循環型・超省エネ型の下水道システムの創出に貢献する技術や制度について調査・

下水道システムイノベーション研究室を開設
TGSの寄付講座 産官学と市民の連携拠点へ
〈東京大学〉

東京大学は今年4月、大学院工学系研究科(都市工学専攻)に「下水道システムイノベーション



研究を行う、②大規模災害時に下水道施設の機能確保のためのICT技術の活用や、事業継続計画によりクライシスマネジメントを確立する方策を検討し、持続的な下水道システムを創出する、③下水道システムのイノベーションに必要な高度な人材の育成、の3つをあげた。

続いて加藤特任准教授と野村特任助教がそれぞれ抱負を語った。加藤特任准教授は「人と人をつなぐ」がキーワード。「産官学の拠点」が研究室の特徴だが、この産官学に市民をつなぐ形でイノベーションを興していければ。また、下水道界に限らず、水道や農業や福祉など、いろんな分野をつなげていきたい。人材育成の観点からは、世代をつなぐことにも力を入れたい。若い人に下水道の魅力を伝えてこの世界に入ってきてもらうだけでなく、下水道界に入ってこない学生であっても、別の分野で活躍するようなリーダーが出てくると思うので、そうしたリーダーたちが下水道のことを知っているという世の中をつくるのが下水道事業の進化と発展につながると考えている」と話した。

野村特任助教は「下水道に眠っているお宝(シーズ)を発掘する研究開発拠点にしたい。また、教育機関としては、グローバルとローカルの両方の視点を持ったイノベティブな人材の育成に努めたい。下水道の多様化を一層進める観点からは、防災や美・食・健康などとの連携も想定しており、そうした連携を興せるような研究室でありたいと考えている」と述べた。

スポンサーであるTGSの渡辺社長は、寄付の経緯や研究室への期待についてコメント。「昨年度に創立35周年という大きな節目を迎え、下水道事業に貢献する取り組みの1つとして、今回初めて東大の講座設置に寄付を行った。強力な布陣で実施されるということで、感謝するとともに大きな期待を寄せている。当社としては、未来を担う若い研究者に下水道事業を学ぶ機会を提供することで、日本の下水道事業のさらなる発展に貢献していきたい。研究室との共同研究なども推し進めながら実務面でも連携していければ」と話した。



左から渡辺社長、加藤准教授、滝沢教授、野村助教

その後、記者団との間に質疑応答が交わされた。主なやり取りは以下のとおり。

——研究室に所属する学生は。

加藤 大学の卒論生が2名いる。

——想定している研究テーマ。

加藤 具体的にはこれからだが、卒論に関係するテーマを中心に、ある程度絞りながらやっていく。エネルギー問題や水環境の研究から取り組んでいくことになると思う。

——TGSは東京都の施設を管理しているが、研究室や学生に対し実フィールドを使った協力も想定しているか。

渡辺 全面的にバックアップしたいと考えている。

——野村助教の経歴等。

野村 大学の頃は水中の有害物質に興味があり、除去技術の開発や機構解明の研究に取り組んだ。その後、博士課程で高知大学の藤原拓教授の研究室に所属し、排水処理技術開発の研究を中心に、養殖や農業など異分野の専門家と交流するなど有意義な時間を過ごすことができた。今年は下水処理場の処理水の有効活用の研究に取り組んでいきたいと考えている。

——異分野連携のねらい。

加藤 下水道の資源やシステムを使って地域に貢献したいという思いが根底にある。そうすると、下水道だけでは当然できない。産官学と市民の連携と言ったが、市民から見ると、農業も福祉も生活の一部。下水道と他の分野をつないで市民の生活を支えるような研究をやりたい。これまで様々なプロジェクトや制度づくりに関わってきたが、それらを地域へ広める手法や戦略がやや不十分だったと反省しているので、その点にこだわりたい。

——改めて寄付講座への期待を。

滝沢 寄付講座は、社会に何を還元していくのか考えることが重要。そうした意味では、加藤先生がこれまでのキャリアで培った様々なネットワークが一番の強みだと思う。そのネットワークをさらに強めるため、例えばいろんな形の勉強会を開催して知識や最新情報を共有するなど、研究だけでなく、もっと幅広い活動も期待したい。